

## 藩政後期・明治前期における雄勝郡の産業構造

国安 寛\*

### I はじめに

当館では、開館以来県内の一地域を設定して調査研究を進め、展示またはその他の普及活動にその成果を発表してきた。本年度から湯沢市・雄勝郡に範囲を定めて、各部門による調査研究を進め、ある時点で総合化を図ろうとするもので、終局的には総合研究をねらうものである。

歴史部門の近世関係にとっては、当該地域の基本構造をはあくすることが先決問題である。その一つの基礎作業として産業構造を究明する必要があると考えるものである。

この分野の研究としては半田市太郎氏の労作<sup>1)</sup>をあげることができる。また、筆者もそれに導かれて分析したことがある。すなわち、平鹿郡増田村石田四郎兵衛家と成瀬および皆瀬沢日の関連、雄勝郡川連村高橋利兵衛家の商品流通上における地位、また、川連村関喜内の殖産興業—とくに養蚕業—、増田出身の山中新十郎の沢日興産策<sup>2)</sup>等であった。

これらの成果をふまえながら、新資料を分析し、新しい課題を設定して、雄勝郡の産業構造の総体をはあくし、同時にその特質を浮き彫りにすることが本稿のねらいである。

なお、標題の「雄勝郡」の名称は、取り上げる時期がその名称であったためであり、また、論証の必要から明治そして藩政期の順にした。

さらに、最初に取り上げる主要資料である「雄勝郡村誌」について簡単にふれておく。これは「明治八年の太政官達によれば、町村名、疆域、幅員、管轄沿革等四十七項目に亘って調査し絵図を添付して報告するように命じられたものである。」<sup>3)</sup>とあり、明治政府が地租改正の時点で実施した全国的な民力調査と考え

られる。県内で同類のものとして確認できるものは、「由利郡・村誌」および「南秋田郡・村誌」・「河辺郡・村誌」の一部である<sup>4)</sup>。雄勝郡の場合は「秋田県雄勝郡誌 全」一卷と「秋田県雄勝郡村誌 卷之一から卷之六」<sup>5)</sup>の計七巻である。これは第七大区地租改正総代人や養蚕指導者として知られる雄勝郡三又村（稲川町）茂木亀六が編集したもので、項目は、郡および村略図・郡および村名・所属・疆域・幅員・管轄沿革・里程・地勢・地味・税地・字地・貢租・戸数・人数・牛馬・川・道路・社・寺・学校・町村会処・郵便局・警察署・古跡・物産・民業の26について記載している。成立年代についてのべると、明治15年（1882）に「調書御閲覧ヲ請フノ文」<sup>6)</sup>を石田県令に提出し、同16年（1883）に石田県令の序文がある。また、調査年代については、明治8年（1875）・同9年・同10年・同12年（1879）・同18年（1885）物産<sup>7)</sup>と項目によって異なる。従って最終成立年代は明治18年ということになる。

### II 雄勝郡旧親郷別・旧村別地目面積

前にのべたように「村誌」六巻あるが、ほぼ旧親郷を一巻としている。しかし、「卷之六」は旧西馬音内前郷と山田親郷をまとめているので、以下の表はそれに従った。また、旧湯沢親郷の多くは「卷之一」に入れているが、関口・上関・下関の3か村は「卷之四」に収録している。旧親郷別の原則に立って、上記3か村を湯沢親郷に移した。

第1表は「明治9年（1876）秋田県地目別面積」<sup>8)</sup>であるが、田畠45.5%・山林原野等47.6%であって、後者が若干上回る比率を示している。第2表で「同年雄勝郡地目別面積をみると、県に対する比率で高いの

\*秋田県立博物館

第1表 明治9年(1876)秋田県地目別面積

地 目	面 積	%	合計%
田	9,758,129.00	33.93	) 45.48
畠	3,321,874.18	11.55	
宅 地	824,143.21	2.87	
未 定 地 田	1,124.05	0.004	
〃 畠	6,287.13	0.02	
鹿 野 畠	65,011.11	0.23	
切 換 畠	25,776.04	0.09	
新開試作地	256,976.22	0.89	
山 林	5,590,589.00	19.44	) 47.63
林	1,334,599.14	4.64	
萱 場	278,539.15	0.97	
秣 場	6,450,255.07	22.43	
草 生 地	425,250.16	0.15	
温 泉	1.25	0	
荒 地	420,676.22	1.46	
総 計	28,759,235.13	98.67	

※畠に塩田,山林に山,林に竹林を入れて集計した。  
 ※「旧秋田県史第4冊」P226～P229

第2表 明治9年(1876)雄勝郡地目別面積

地 目	面 積	%	合計%	秋田県に 対する比率(%)
田	844,552.18	28.10	) 36.28	8.65
畠	245,789.15	8.18		7.40
宅 地	78,585.04	2.60		9.54
未 定 地 田	727.15	0.02		64.68
〃 畠	4,486.05	0.15		71.35
鹿 野 畠	36,907.18	1.23		56.77
切 換 畠	535.27	0.02		2.08
新開試作地	7,134.14	0.24		2.78
山 林	898,839.00	29.9	) 58.65	16.08
林	72,606.05	2.4		5.44
萱 場	8,005.07	0.27		2.87
秣 場	681,484.22	22.67		10.57
草 生 地	102,520.22	3.41		24.11
温 泉	1.03	0		
荒 地	23,696.17	0.79		5.63
総 計	3,005,872.12	99.98		10.45

※「秋田県雄勝郡誌全」  
 国安寛「雄勝郡成瀬沢目の経済構造」  
 (「秋田地方史論集」所収)

は、「未定地(田・畠)」と「鹿野畠」である。鹿野畠については、項を改めて考察したい。また、田畠36.3%・山林原野等58.7%で後者が22.4%と大きく上回る比率を示している。このことからみて、雄勝郡は山林原野等の比率の高い地域である。第3表は「雄勝郡旧親郷別地目面積」である。若干の考察を加えるとまず、雄勝郡全体に対する比率は、田は西馬音内前郷・山田親郷(26.1%)・西馬音内堀回親郷(20.0%)が高い方である。畠は稲庭親郷(30.3%)・宅地は稲庭親郷(20.8%)・鹿野畠は狙半内親郷(44.9%)・稲庭親郷(42.0%)であって両者で約87%をしめる程高い比率である。切換畠の場合、横堀親郷(89.4%)で大部分をしめる。また山林では西馬音内堀回親郷(40.9%)・横堀親郷(19.1%)・狙半内親郷(18.7%)が高い方である。原野は西馬音内堀回親郷(26.6%)・稲庭親郷(22.3%)・狙半内親郷(20.4%)が高い方である。つぎに第4表は雄勝郡旧親郷別の田畠・山林原野の比率を抽出したものである。これによって主要地目の差が明確となる。前にのべたように、雄勝郡は田畠の比率が低い、その中であって西馬音内前郷(67.7%)・湯沢(56.8%)は高い比率を示す旧親郷地域である。逆に山林・原野の高い旧親郷は、狙

半内(76.6%)・西馬音内堀回(73.6%)・横堀(64.1%)と、郡の東西の山間及び山麓地域である。

ついで第5表～10表は雄勝郡旧親郷別各村の地目別面積である。第4表の例に従い第11表～13表をみよう。第11表旧狙半内親郷で田畠の比率の高いのは熊淵(82.4%)で平野部と同じ程度である。逆に山林原野の高い村は他7か村で、50%以上である。とくに岩井川(88.4%)・狙半内(84.5%)は高い比率を示している。旧稲庭親郷では、田畠の高い村は三又(88.8%)・大門(86.6%)・八面・大倉・川連・三梨の各村である。山林原野の比率の高い村は、東福寺(87.9%)・戸波(82.5%)・飯田(80.5%)・川向・宮田・畠等が50%以上になっている。第12表の旧横堀親郷で田畠の比率の高い村は、横堀・小野の2か村で共に50%台で決して高い比率とはいえない。また、山林原野の比率の高い村は中村(82.4%)を筆頭に12か村が50%以上である。また、旧湯沢親郷で田畠の比率の高い村は、湯沢を除いて14か村が50%以上であって、とくに金谷(96.2%)・柳田(93.0%)八幡(90.9%)・森(90.4%)・倉内(88.1%)・二井田(86.3%)が高く、平野村が大部分とってよい。山林原野で高いのは湯沢(66.8%)1町のみである。第13表の旧西馬音

藩政後期・明治前期における雄勝郡の産業構造

第3表 明治9年(1876)雄勝郡旧親郷別地目面積

旧親郷	地目	村数	田	畠	宅地	鹿野畠	切換畠	山林	原野	計
狙半内		8	43798 <sup>+</sup> .27	38838 <sup>+</sup> .29	8298 <sup>+</sup> .12	15333 <sup>+</sup> .03	(未定地41.09) 56 <sup>+</sup> .18	18062 <sup>+</sup> .28	159892 <sup>+</sup> .04	446881 <sup>+</sup> .10
	(%)		9.8	8.7	1.9	3.4	(0.01) 0.1	40.4	35.8	100.02
	(郡%)		5.2	15.7	10.7	44.9	(8.1) 10.6	18.7	20.4	15.1
稲庭		14	133800.11	75040.18	16099.19	14335.18	未定地 (225.03)	115608.12	174983.08	530092.29
	(%)		25.2	14.2	3.0	2.7	(0.1)	21.8	33.0	100
	(郡%)		15.8	30.3	20.8	42.0	(44.5)	12.0	22.3	17.9
横堀		15	119319.06	36375.00	12639.07	2.14	(未定地92.28) 470.10	184766.09	116889.06	470554.20
	(%)		25.4	7.7	2.7	0.1	(0.1) 0.1	39.3	24.8	100.2
	(郡%)		14.1	14.7	16.3	0.006	(18.2) 89.4	19.1	14.9	15.9
湯沢		15	158459.28	37259.02	15417.26	984.04	未定地 (28.06)	48524.26	(林場2912.28) 80574.10	344161.10
	(%)		46.0	10.8	4.5	0.3	(0.1)	14.1	(0.8) 23.4	100
	(郡%)		18.8	15.0	19.9	2.9	(5.5)	5.0	10.6	11.6
西馬音内前郷山田		16	220139.26	36252.11	14620.09		未定地 (118.22)	(林1827.29) 41607.21	(林場260.06) 64054.29	378882.03
	(%)		58.1	9.6	3.9		(0.03)	(0.5) 11.0	(0.1) 16.9	100.1
	(郡%)		26.1	14.6	18.9		(23.3)	(100) 4.3	8.2	12.8
西馬音内堀回		17	168943.10	23979.01	10400.14	3472.14		395652.05	草地934.10 183645.16	787027.10
	(%)		21.5	3.0	1.3	0.4		50.3	(0.1) 23.3	99.9
	(郡%)		20.0	9.6	13.4	10.2		40.9	△ 23.5	26.6
計		85	844461.18	247745.01	77475.27	34127.23	(未定地506.08) 526.28	(林1827.29) 966781.11	(草地934.10) 183645.16	2957599.22
	(%)		28.6	8.3	2.6	1.2	(0.02) 0.02	(0.1) 32.7	26.5	100.04
	(郡%)		100	99.9	100	100.006	(99.6) 100	(100) 100	99.9	99.9

※「秋田県雄勝郡村誌 卷之一～卷之六」

内前郷・山田親郷で田畠の比率の高い村は、石塚・山田・松岡を除く13か村あって、60%以上をしめる。とくに貝沢(95.0%)・赤袴(92.5%)・郡山(92.3%)・島田新田(90.4%)で糠塚・高尾田・深堀・野中・杉宮の各村は80%台をしめる。ここも平野村の色彩が極めて強い。また、山林原野が50%以上の村は、山田・石塚(80.4%)であって、石塚村のみが山村型である。旧西馬音内堀回親郷で田畠の比率が高い村は、堀内(71.8%)のみである。他は山林原野の比率が50%以上で、とくに、拂体(87.6%)・鹿内(85.5%)・飯沢(84.6%)・大沢(84.1%)が高く、この旧親郷地域は山村型である。

Ⅲ 雄勝郡旧親郷別・旧村別主要物産

まず第14・15表によって明治10年(1877)全県にお

ける雄勝郡の農作物の地位を確認しよう。普通農作物の金額比は73.8%で最下位をしめ、とくに米は69.1と

第4表 雄勝郡旧親郷別田畠・山林原野比率

旧親郷	地目	田畠	山林原野
狙半内		18.5%	76.6%
稲庭		39.4	54.8
横堀		33.1	64.1
湯沢		56.8	37.5
西馬音内前郷・山田		67.7	27.9
西馬音内堀回		23.5	73.6

※第3表より作製

低く、逆に大豆は26.2%と比率が高い。また、特有農作物の金額比は、生糸・葉たばこ・蚕・麻・藍葉の順であるが、他郡に比較して比率が高い。つぎに同年の

第5表 明治9年(1876)雄勝郡旧狙半内親郷各村地目別面積

村	地目	田	畠	宅地	鹿野畠	切換畠	山林	原野	計
荻袋		6141 <sup>±</sup> .10	2435 <sup>±</sup> .13	661 <sup>±</sup> .22	14 <sup>±</sup> .00	七	2441 <sup>±</sup> .20	12778 <sup>±</sup> .28	24473 <sup>±</sup> .03
	%	25.1	10.0	2.7	0.006		10.0	52.2	100.006
熊渕		4913.12	518.15	236.24		(未定地 30.24)	404.15	490.04	6594.04
	%	74.5	7.9	3.6		0.5	6.1	7.4	100
湯野沢		2925.05	1756.12	272.16		56.18	6172.00	2686.03	13868.24
	%	21.1	12.7	2.0		0.4	44.5	19.4	100.1
吉野		2886.12	1546.04	357.10			7253.04	1622.25	13665.25
	%	21.1	11.3	2.6			53.1	11.9	100
狙半内		6503.10	8097.13	1933.17	5246.26		64784.24	54651.12	141217.12
	%	4.6	5.7	1.4	3.7		45.8	38.7	99.9
田子内		12202.08	11291.27	2174.04	4144.16		20950.20	(場、草生地、菅場 20427.02)	71190.17
	%	17.1	15.9	3.1	5.8		29.4	28.7	100
岩井川		4393.28	3135.00	910.12	1135.00		48881.03	23717.08	82172.21
	%	5.4	3.8	1.1	1.4		59.5	28.9	100.1
椿川		3833.02	10058.05	1751.27	4792.21	(未定地 10.15)	29734.02	43518.12	93698.24
	%	4.1	10.7	1.9	5.1	0.01	31.7	46.5	100.01
計		43798.27	38838.29	8298.12	15333.03	(未定地 41.09 56.18)	180621.28	159892.04	446881.10
	%	9.8	8.7	1.9	3.4	(0.01) 0.1	40.4	35.8	100.02

※「雄勝郡村誌 卷之三」

等6表 明治9年(1876)雄勝郡旧稲庭親郷各村地目別面積

村	地目	田	畠	宅地	鹿野畠	切換畠	山林	原野	計
八面		16383 <sup>±</sup> .07	3504 <sup>±</sup> .28	1128 <sup>±</sup> .20	七	七	3249 <sup>±</sup> .02	3784 <sup>±</sup> .02	28049 <sup>±</sup> .29
	%	58.4	12.5	4.0			11.6	13.5	100
東福寺		3536.29	1149.17	478.22			8003.12	29117.04	42285.24
	%	8.4	2.7	1.0			19.0	68.9	100
大門		2189.13	300.24	215.28			43.00	125.02	2874.07
	%	76.2	10.4	7.5			1.5	4.4	100
三又		15155.26	1872.27	1020.07			915.02	224.07	19188.09
	%	79.0	9.8	5.3			4.8	1.2	100.1
大倉		5236.06	1815.09	309.10			2877.18	968.29	11207.12
	%	46.7	16.2	2.8			25.7	8.6	100
戸波		2130.10	1619.12	449.08			7773.03	12089.27	24062.00
	%	8.9	6.7	1.9			32.3	50.2	100
大館		5077.14	1373.05	933.19	1831.06		2310.06	270.14	11796.04
	%	43.0	11.6	7.9	15.5		19.6	2.3	99.9
川連		14995.00	3597.28	2016.12	2631.18		3130.18	3579.16	29951.02
	%	50.1	12.0	6.7	8.8		10.5	11.9	100
三梨		23011.02	14975.01	2016.12	241.11		11712.28	20773.07	72730.01
	%	31.6	20.6	2.8	0.3		16.1	28.6	100
宮田		2854.25	1967.01	346.14			2806.12	6558.26	14533.18
	%	19.6	13.5	2.4			19.3	45.1	99.9
飯田		3505.25	1977.26	339.00			2574.23	21451.08	29848.22
	%								

藩政後期・明治前期における雄勝郡の産業構造

%	11.7	6.6	1.1			8.6	71.9	99.9
稲庭	14656.21	16622.08	2393.28	984.26	未定地 田 50.28 畠 140.09	9137.05	20977.12	64963.17
%	22.6	25.6	3.7	1.5	(0.3)	14.1	32.3	100.1
川向	20697.07	13458.03	2861.10	62.17	(未定地 畠 33.26)	46235.21	36157.06	119506.00
%	17.3	11.3	2.4	0.1	(0.1)	38.7	30.2	100.1
畠等	4370.06	10806.09	1590.09	8584.00		14839.12	18905.28	59096.04
%	7.4	18.3	2.7	14.5		25.1	32.0	99.9
計	133800.11	75040.18	16099.19	14335.18	(225.03)	115608.12	174983.08	530092.29
%	25.2	14.2	3.0	2.7	0.1	21.8	33.0	100

※「雄勝郡村誌卷之二」

第7表 明治9年(1876)雄勝郡旧横堀親郷各村地目別面積

地目 村	田	畠	宅地	鹿野畠	切换畠	山林	原野	計
横堀	6678 <sup>+</sup> .00	1341 <sup>+</sup> .23	959 <sup>+</sup> .07	*	*	4933 <sup>+</sup> .08	1523 <sup>+</sup> .10	15435 <sup>+</sup> .18
%	43.3	8.7	6.2			32.0	9.9	100.1
小野	18506.11	4106.15	1543.21			4179.11	11426.04	39762.02
%	46.5	10.3	3.9			10.5	28.7	99.9
下院内	9594.26	1860.13	1293.09		(未定地 田 17.03)	11811.27	5442.12	30020.00
%	32.0	6.2	4.3		0.1	39.3	18.1	100
上院内	10034.02	1804.28	866.09			21276.03	3665.21	37647.03
%	26.7	4.8	2.3			56.5	9.7	100
院内鶴山町								0
%								
寺沢	4442.22	1026.20	429.29			4570.26	3055.12	13525.19
%	32.8	7.6	3.2			33.8	22.6	100
中村	9977.11	2800.10	633.27			42119.18	20456.10	75987.16
%	13.1	3.7	0.8			55.4	27.0	100
川井	4517.28	1705.15	529.07	2.14		9216.03	3603.10	19574.17
%	23.1	8.7	2.7	0.1		47.1	18.4	100.1
役内	7082.01	1525.08	881.19			12624.12	8171.27	30285.07
%	23.4	5.0	2.9			41.7	27.0	100
高松	10276.07	4629.16	1135.12		(未定地 田 75.25 353.19)	40694.08	18380.13	75545.10
%	13.6	6.1	1.5		(0.1) 0.5	53.9	24.3	100
宇留院内	2268.26	1661.02	364.18		42.23	4254.15	3150.21	11742.15
%	19.3	14.1	3.1		0.4	36.2	26.8	99.9
相川	13652.06	7766.05	1768.13		73.28	7900.13	17855.08	49016.13
%	27.9	15.8	3.6		0.2	16.1	36.4	100
桑崎	16118.11	4290.15	1482.09			17050.03	10643.01	49584.09
%	32.5	8.7	3.0			34.4	21.5	100.1
泉沢	3563.20	1155.28	492.22			3381.01	6616.26	15210.07
%	23.4	7.6	3.2			22.2	43.5	99.9
酒蒔	2606.15	700.12	258.15			754.11	2898.11	7218.04
%	36.1	9.7	3.6			10.5	40.1	100
計	119319.06	36375.00	12639.07	2.14	(未定地 田 92.28 470.10)	184766.09	116889.06	470554.20
%	25.4	7.7	2.7	0.1	(0.1) 0.1	39.3	24.8	100.2

※「雄勝郡村誌 卷之四」

国 安 寛

第8表 明治9年(1876)雄勝郡旧湯沢親郷各村地目別面積

村	地目	田	畠	宅地	鹿野畠	切換畠	山林	原野	計
湯沢(町)		28814 <sup>±</sup> .14	7487 <sup>±</sup> .28	5943 <sup>±</sup> .18	±	±	18173 <sup>±</sup> .01	66706 <sup>±</sup> .05	127125 <sup>±</sup> .06
	%	22.7	5.9	4.7			14.3	52.5	100.1
杉沢新処		3964.19	515.06	287.13			314.24	2534.07	7616.09
	%	52.0	6.8	3.8			4.1	33.3	100
杉 沢		6825.01	1748.12	563.10			5922.00	727.10	15786.03
	%	43.2	11.1	3.6			37.5	4.6	100
成 沢		6429.00	1044.21	511.09			2366.07	490.23	10842.00
	%	59.3	9.6	4.7			21.8	4.5	99.9
岩崎(町)		18601.20	3589.01	1426.22			3191.00	3137.06	29945.19
	%	62.1	12.0	4.8			10.7	10.5	100.1
二井田		11992.19	348.13	373.05			1442.00	(株場3.13)	14288.20
	%	83.9	2.4	2.6			10.1	(0.9)	99.9
角 間		7016.09	2895.11	497.09			1023.17	(株場280.15)	14213.01
	%	49.3	20.4	3.5			7.2	(19.6)	100
森		11466.19	1131.26	692.12			549.19	89.19	13930.05
	%	82.3	8.1	5.0			3.9	0.6	99.9
金 谷		10193.06	208.00	386.27				18.10	10806.13
	%	94.3	1.9	3.6				0.2	100
八 幡		14659.05	2938.08	790.09			624.23	350.12	19362.27
	%	75.7	15.2	4.1			3.2	1.8	100
倉 内		8453.29	768.25	406.08			96.25	730.13	10456.10
	%	80.8	7.3	3.9			0.9	7.0	99.9
柳 田		7160.02	1026.04	361.27			126.28	131.08	8806.09
	%	81.3	11.7	4.1			1.4	1.5	100
関 口		11160.04	6918.24	1599.13	984.04	(未定地 28.06)	12378.10	2162.23	35231.24
	%	31.7	19.6	4.5	2.8	(0.1)	35.1	6.1	99.9
上 関		4879.07	4222.28	960.08			1098.19	1 2471.02	13632.04
	%	35.8	31.0	7.0			8.1	18.1	100
下 関		6843.24	2415.05	617.16			1217.03	1024.22	12118.10
	%	56.5	19.9	5.1			10.0	8.5	100
計		158459.28	37259.02	15417.26	984.04	(未定地 28.06)	48524.26	(株場2912.28) 80574.10	344161.10
	%	46.0	10.8	4.5	0.3	(0.1)	14.1	(0.8) 23.4	100

※「雄勝郡村誌 卷之一・四」関口以下は卷之四

第9表 明治9年(1876)雄勝郡旧西馬内前郷および山田親郷各村地目別面積

村	地目	田	畠	宅地	鹿野畠	切換畠	山林	原野	計
西馬音内		16619 <sup>±</sup> .00	1859 <sup>±</sup> .21	1266 <sup>±</sup> .07	±	(未定地畠118.22)	3661 <sup>±</sup> .08	499 <sup>±</sup> .26	24024 <sup>±</sup> .24
	%	69.2	7.7	5.3		(0.5)	15.2	2.1	100
大 戸		12986.07	629.15	557.05			1211.03	2201.07	17585.07
	%	73.8	3.6	3.2			6.9	12.5	100
野 中		11699.08	1486.09	623.29			781.04	1335.28	15926.18
	%	73.5	9.3	3.9			4.9	8.4	100

藩政後期・明治前期における雄勝郡の産業構造

糠塚	3602.26	686.25	254.22			林 89.15	161.11	4795.09
%	75.1	14.3	5.3			1.9	3.4	100
足田	15886.05	2136.12	935.04			3269.16	3936.17	26163.24
%	60.7	8.2	3.6			12.5	15.0	100
郡山	13334.03	937.00	672.29			林 36.18	483.05	15463.25
%	86.2	6.1	4.3			0.2	3.1	99.9
高尾田	7219.01	731.20	474.22				854.04	9279.17
%	77.8	7.9	5.1				9.2	100
島田新田	4703.22	660.21	303.13				(株場260.06)	5928.02
%	79.3	11.1	5.1				4.4	99.9
杉宮	14274.24	3926.02	1133.24			林 386.09	2362.24	22083.23
%	64.6	17.8	5.1			1.7	10.7	99.9
大久保	12087.28	2903.28	800.17			林 1054.12	2029.23	18876.18
%	64.0	15.4	4.2			5.6	10.7	99.9
赤袴	8048.07	271.09	564.15			林 66.14	41.17	8992.02
%	89.5	3.0	6.3			0.7	0.5	100
貝沢	25435.11	5831.00	1650.26					32917.07
%	77.3	17.7	5.0					100
山田	32664.29	6858.22	2267.24			9884.21	37970.14	89646.20
%	36.4	7.7	2.5			11.0	42.4	100
深堀	23498.11	2975.22	981.16			林 194.21	3666.26	31317.06
%	75.0	9.5	3.1			0.6	11.7	99.9
松岡	16825.24	3199.24	1591.09			12958.22	6212.24	40788.13
%	41.2	7.8	3.9			31.8	15.2	99.9
石塚	1254.00	1157.21	541.17			9841.07	2298.13	15092.28
%	8.3	7.7	3.6			65.2	15.2	100
計	220139.26	36252.11	14620.09		(未定地畠 118.22)	41607.21 林1827.29	64054.29 (株場260.06)	378882.03
%	58.1	9.6	3.9		(0.03)	11.0 林0.5	16.9 (株場0.1)	100.1

※「雄勝郡村誌 卷之六」赤袴以下は山田親郷

第10表 明治9年(1876)雄勝郡旧西馬音内堀向親郷各村地目別面積

村	地目	田	畠	宅地	鹿野畠	切換畠	山林	原野	計
西馬音内堀		17915.01	1995.07	1076.01	2857.16	七	22173.09	33148.14	79165.18
	%	22.6	2.5	1.4	3.6		28.0	41.9	100
飯沢		7384.26	3663.28	574.13	535.26		52724.23	13927.25	78811.21
	%	9.4	4.6	0.7	0.7		66.9	17.7	100
床舞		14516.29	1799.20	874.12			13831.14	6889.25	37912.10
	%	38.3	4.8	2.3			36.5	18.2	100.1
田沢		5142.26	129.07	188.23			19047.18	220.00	24728.14
	%	20.8	0.5	0.8			77.0	0.9	100
鹿内		3029.02	284.18	151.22			18052.10	2332.20	23850.12
	%	12.7	1.2	0.6			75.7	9.8	100
新町		10542.16	2394.12	930.00			26165.01	14475.13	54507.12
	%	19.3	4.4	1.7			48.0	26.6	100

国 安 寛

堀内	6457.28	286.28	338.09			2051.16	256.09	9391.00
%	68.8	3.0	3.6			21.8	2.7	99.9
揖体	3352.26	304.01	176.08			24495.20	2665.29	30994.24
%	10.8	1.0	0.6			79.0	8.6	100
水沢	3070.00	578.19	168.10	79.02		11400.04	911.22	16207.27
%	18.9	3.6	1.0	0.5		70.3	5.6	99.9
林崎	2469.15	407.18	247.05			2510.11	802.19	6437.08
%	38.4	6.3	3.8			39.0	12.5	100
大沢	12990.25	1678.01	1424.11			70901.16	13986.03	100980.26
%	12.9	1.7	1.4			70.2	13.9	100.1
上到米	13675.03	1045.20	858.28			8036.16	14049.23	37666.00
%	36.3	2.8	2.3			21.3	37.3	100
田代	21025.22	2730.15	1266.27			27950.20	20033.18	73007.12
%	28.8	3.7	1.7			38.3	27.4	99.9
下仙道	12446.03	1620.26	641.07			26834.12	8734.26	50277.14
%	24.8	3.2	1.3			53.4	17.4	100.1
中仙道	8833.25	1281.04	490.01			19468.27	(草生地934.10) 6422.07	37430.14
%	23.6	3.4	1.3			52.0	(2.5) 17.1	99.9
上仙道	10826.23	1885.09	558.00			27464.21	11727.24	52462.17
%	20.6	3.6	1.1			52.4	22.3	100
軽井沢	15263.10	1893.08	435.17			22543.07	33060.09	73195.21
%	20.9	2.6	0.6			30.8	45.2	100.1
計	168943.10	23979.01	10400.14	3472.14		395652.05	(草生地934.10) 183645.16	787027.10
%	21.5	3.0	1.3	0.4		50.3	(0.1) 23.3	99.9

※「雄勝郡村誌 巻之五」

第11表 雄勝郡旧親郷別各村田畠・山林原野比率

旧 狙 半 内 親 郷			旧 稲 庭 親 郷		
村	地目		村	地目	
荻袋	35.1%	62.2%	八面	70.9%	25.1%
熊湧	82.4	13.5	東福寺	11.1	87.9
湯野沢	33.8	63.9	大門	86.6	5.9
吉野	32.4	65.0	三又	88.8	6.0
狙半内	10.3	84.5	大倉	62.9	34.3
田子内	33.0	58.1	戸波	15.6	82.5
岩井川	9.2	88.4	大館	54.6	21.9
椿川	14.8	78.2	川連	62.1	22.4
			三梨	52.2	44.7
			宮田	33.1	64.4
			飯田	18.3	80.5
			稲庭	48.2	46.4
			川向	28.6	68.9
			畠等	25.7	55.1

※第5表より作製

第6表より作製

第12表 雄勝郡旧親郷別各村田畠・山林原野比率

旧 横 堀 親 郷			旧 湯 沢 親 郷		
村	地目		村	地目	
横堀	52.0%	41.9%	湯沢	28.6%	66.8%
小野	56.8	39.2	杉沢新処	58.8	37.4
下院内	38.2	57.4	杉沢	54.3	42.1
上院内	31.5	66.2	成沢	68.9	26.3
院内银山			岩崎	74.1	21.2
寺沢	40.4	56.4	二井田	86.3	10.1
中村	16.8	82.4	角間	69.7	7.2
川井	31.8	65.5	森	90.4	4.5
役内	28.4	68.7	金谷	96.2	0.2
高松	19.7	78.2	八幡	90.9	5.0
宇留院内	33.4	63.0	倉内	88.1	7.9
相川	43.7	52.5	柳田	93.0	2.9
桑崎	41.2	55.9	関口	51.3	41.2
泉沢	31.0	65.7	上関	66.8	26.2
酒蒔	45.8	50.6	下関	76.4	18.5

※第7表より作製

※第8表より作製

第13表 雄勝郡旧親郷別各村田畠・山林原野比率

旧西馬音内前郷・山田親郷					
村	地目		村	地目	
	田	畠		田	畠
西馬音内前郷	76.9%	17.3%	杉宮	82.4%	12.4%
大戸	77.4	19.4	大久保	79.4	16.3
野中	82.8	13.3	赤袴	92.5	1.2
糠塚	89.4	5.3	貝沢	95.0	0
足田	68.9	27.5	山田	44.1	53.4
郡山	92.3	3.3	深堀	84.5	12.3
高尾田	85.7	9.2	松岡	49.0	47.0
島田新田	90.4	4.4	石塚	16.0	80.4

※第9表より作製

旧西馬音内堀回親郷					
村	地目		村	地目	
	田	畠		田	畠
西馬音内堀回	25.1%	69.9%	林崎	44.7%	51.5%
飯沢	14.0	84.6	大沢	14.6	84.1
床舞	43.1	54.7	上到米	39.1	58.6
田沢	21.3	77.9	田代	32.5	65.7
鹿内	13.9	85.5	下仙道	28.0	70.8
新町	23.7	74.6	中仙道	27.0	69.1
堀内	71.8	24.5	上仙道	24.2	74.7
弘体	11.8	87.6	軽井沢	23.5	76.0
水沢	22.4	75.9			

※第10表より作製

第14表 郡別農産調 (明治10年)

郡名	普通農作物			特有農作物					
	米	大豆	麻	藍葉	生糸	葉たばこ	蚕	茶	
秋田	95.8%	米86.5%	大豆 4.2%	麻 1.1%	藍葉 1.1%	生糸 0.7%	葉たばこ 0.5%	蚕 0.4%	
河辺	98.3	米94.8	大豆 1.7	蚕 0.9	藍葉 0.3	麻 0.2	生糸 0.1	茶	
山本	95.2	米86.3	大豆 4.8	藍葉 2.8	麻 1.1	茶 0.2	生糸 0.2	蚕 0.1	
仙北	95.5	米88.0	大豆 4.5	生糸 1.1	蚕 1.0	楮皮 0.9	麻 0.8	茶 0.3	
平鹿	90.0	米86.4	大豆 10.0	生糸 4.7	蚕 2.4	藍葉 1.2	葉たばこ 0.8	楮皮 0.3	
雄勝	73.8	米69.1	大豆 26.2	生糸 14.0	葉たばこ 4.2	蚕 3.0	麻 2.1	藍葉 2.0	
計	92.5	米85.4	大豆 7.5	生糸 2.8	藍葉 1.1	蚕 1.1	麻 1.0	葉たばこ 0.8	

※明治10年「全国農産表」による ※金額比

生産比は生糸 (58.6%) が一位・藍葉 (19.1%) 三位・蚕 (32.2%) 一位・麻 (22.6%) 二位・葉たばこ (68.4%) 一位である。従って、雄勝郡の特有農作物は養蚕と葉たばこが全体的にみて地位が高いといえる。

つぎに第16表の明治18年 (1885)

「雄勝郡旧親郷別主要物産調」で主要物産の地域的特性をみよう。「生糸」は、横堀 (27.6)・稲庭 (21.3)・狙半内 (19.8%) で郡内の68.7%をしめ、これに湯沢 (12.0) を加えると80.7%となる。すなわち、郡の東部地域が主生産地といえる。「真綿」は横堀 (46.4%)・湯沢 (32.1%) で郡の78.5%をしめる。「桑葉」は横堀 (52.9%) で他旧親郷地域の中で1旧親郷地域で半数をこえる比率をもっている。「葉藍」は稲庭 (59.0%)・狙半内 (20.7%) で郡の79.7%をしめ、これに横堀 (14

第15表 特有農作物調 (明治10年)

郡名	生糸	藍葉	蚕	麻	葉たばこ
秋田	8.0	33.1	15.4	40.2	16.5
河辺	0.3	4.7	6.1	1.7	
山本	0.6	19.6	0.8	15.7	0.5
仙北	9.7	7.0	20.6	17.4	4.0
平鹿	22.8	16.4	24.9	2.4	10.5
雄勝	58.6	19.1	32.2	22.6	68.4

※明治10年「全国農産表」による ※生産量比  
○第14・15表は半田市太郎氏「秋田藩における在方商業の研究」

4.4%) を加えると94.1%となり、郡の東部3旧親郷地域で大部分を生産することになる。「苧」は狙半内 (46.8%) で半数近くをしめ、横堀 (34.0%) で、両者計80.8%となる。さらに、稲庭 (18.0%) を加えると99.8%の殆んどをこれまた東部3旧親郷地域で生産する。「茶」は湯沢 (49.3%) で郡の半数近くをしめ、ついで西馬音内前郷・山田 (29.2%)、横堀 (21.5%) であって、この3旧親郷で全部を生産する。「麻糸」は、

第16表 明治18年（1885）雄勝郡旧親郷別主要物産調

旧親郷	生 糸	真 綿	桑 葉	葉 藍	苘	茶	麻 糸	炭
狙 半 内 (郡%)	590.7 <sup>貫</sup> 19.8	99.7 <sup>貫</sup> 8.0	85000 <sup>貫</sup> 7.6	6214 <sup>貫</sup> 20.7	102370 <sup>斤</sup> 46.8	<sup>貫</sup>	78.6 <sup>貫</sup> 5.6	4850 <sup>貫</sup> 0.7
稲 庭 (郡%)	635.7 21.3	95.55 7.7	157360 14.1	17671 59.0	39450 18.0		545 38.8	155000 22.1
横 堀 (郡%)	824 27.6	577.48 46.4	588416 52.9	4340 14.4	74400 34.0	71.5 21.5	187 13.3	365200 52.1
湯 沢 (郡%)	357.63 12.0	399.2 32.1	99825 9.0	1250 4.2	1563 0.7	163.9 49.3	15 1.0	
西馬音内 前郷・山田 (郡%)	247.7 8.3	8.7 0.7	45410 4.1	250 0.8	30 0.01	97.3 29.2	530 37.7	8500 1.2
西馬音内堀回 (郡%)	326.2 10.9	64.5 5.2	137335 12.3	315 1.0	1050 0.5		50.5 3.6	167100 23.9
計 (郡%)	2981.93 99.9	1245.13 100.1	1113346 100	30040 100.1	218863 100.01	332.7 100	1406.1 100	700650 100

※「秋田県雄勝郡村誌巻之一～巻六」

第17表 明治18年（1885）雄勝郡旧狙半内親郷主要物産調

村	生 糸	%	真 綿	%	桑 葉	%	葉 藍	%	苘	%	麻 糸	%	薪	%	炭	%
荻 袋	75 <sup>貫</sup>	12.7	15 <sup>貫</sup>	15.1	7,000 <sup>貫</sup>	8.2	700 <sup>貫</sup>	11.3	斤							
熊 渕	7.7	1.3	1.2	1.2	600	0.7	200	3.2			3.6	4.6				
湯野沢	25	4.2	6.5	6.5	3,600	4.2	150	2.4	2,300	2.2			500 <sup>冊</sup>			
吉 野	18.5	3.1	6.5	6.5	4,500	5.3	200	3.2	350	0.3						
狙半内	120	20.3	30	30.1	15,000	17.7	164	2.6	6,720	6.6						
田子内	250	42.3	35.5	35.6	35,000	41.2	1,700	27.4	45,000	44.0	75	95.4			2,500	51.6
岩井川	70	11.9			10,300	12.1	1,500	24.1	10,000	9.8			550 <sup>張</sup>		1,850	38.1
椿 川	25	4.2	5	5.0	9,000	10.6	1,600	25.8	38,000	37.1			1200 <sup>張</sup>		500	10.3
計	590.7	100	99.7	100	85,000	100	6,214	100	102,370	100	78.6	100			4,850	100

※「雄勝郡村誌巻之三」 ○荻袋一その他に雪囲簾2,000枚 ○狙半内一その他に蕨根粉25貫、砥石500貫。

稲庭（38.8%）・西馬音内・山田（37.7%）両者で76.5%となり、これに横堀（13.3%）を加えると、89.8%の大部分がこの3地域で生産されることになる。「炭」は横堀（52.2%）が半数をこえ、外に西馬音内堀回（23.9%）・稲庭（22.1%）で、この3旧親郷地域で殆んど生産する。さきに特有農作物の全県における雄勝郡の生産比率の高さを指摘したが、郡内が平均的に高いのではなく、その中で落差があることが判明した。つまり、主要物産が特定地域に集中している傾向のあること、とくに東部地域が際立っていること、中でも旧横堀親郷地域はどの主要物産でも最高かまたは高水

準の比率をもっていることを指摘しておきたい。

つぎに旧親郷内の村々の主要物産についてみよう。第17表は明治18年（1885）旧狙半内親郷内8か村の主要物産である。「生糸」は田子内（42.3%）・狙半内（20.3%）・荻袋（12.7）の3か村で当親郷の87.2%をしめる。「真綿」は田子内（35.6%）・狙半内（30.1%）・荻袋（15.1%）の3か村で80.7%をしめる。「桑葉」は田子内（41.2%）・狙半内（17.7%）・岩井川（12.1%）・椿川（10.6%）の4か村で81.6%をしめる。「葉藍」は田子内（27.4%）・椿川（25.8%）・岩井川（24.1%）の3か村で88.6%をしめる。「苘」

は田子内 (44.0%)・椿川 (37.1%)・岩井川 (9.8%) の3か村で90.9%をしめる。「麻糸」は田子内(95.4%) 1か村で殆んどをしめる。「炭」は田子内 (51.6%)・岩井川 (38.1%) の2か村で89.7%をしめる。また、「その他」で特色ある物産は荻袋の「雪囲簾」2,000枚は郡内でこの村のみで製造されている。

なお、「養蚕」および「苧」について藩政時代の状況をみると、第18表は寛政11年(1799) 増田村石田四郎兵衛家に対する現物算用を示したものであるが「真綿」は成瀬沢目の狙半内・吉野～手倉で終る。「苧」は成瀬沢目の全域にわたるが、手倉より奥沢目で46.3%をしめている。また増田出身の山中新十郎も天保期に「千八百軒餘之内六百軒(院内・湯沢・増田・横手・稲庭一筆者)は皆奥澤目に而陰気強キ候故蚕は出来不申候右之内増田之澤目椿臺澤目と申候処は家数百五拾軒(手倉・椿台享保140軒一筆者)位有之申候此処は苧名葉之出所に御座候」<sup>9)</sup>とあって、石田家の現物算用と山中新

第18表 寛政11年(1799) 石田家に対する現物算用

地域	算用戸数	米・大・小豆		苧		真綿		その他	
		俵	戸数	斤	戸数	匁	戸数		戸数
増田	4	米 194 大豆 3	3 1						
在郷(平地)	18	米 915 大豆 40	12 2						
狙半内	19	米 5 大小豆 8	1 4	6430	16	8379	13	しば 枚 21間	1 1
吉野～湯ノ沢	15	米 70 小豆 1	3 1	1330	8	3947	6		
下田～田子内	31	米 7.5	1	6546	26	5769	13		
蛭川～肴沢	10			1650	9	2760	5		
岩井川～入道森	28			6263	25	10498	17		
手倉	24	米 9 大豆 3	4 2	7550	24	1905	5	藍 31俵	10
椿台	5	大豆 1	1	1500	5				
五里台	2			900	3				
谷地・天郷	12			3070	12				
大柳・草ノ台	8			3120	9			木 498本	1
菅ノ台	6			2100	6				
檜山台	1			900	1				
計	183	米 1200.5 大小豆 56	24 11	41359	144	33258	59		

地域	米・大・小豆			苧			真綿		
	1戸平均	最高	最低	1戸平均	最高	最低	1戸平均	最高	最低
増田	米 65 大豆 3	170	2						
在郷(平地)	米 76 大豆 20	300	7						
狙半内	米 5 大豆 2			402	1220	20	645	1貫 200	200
吉野～湯ノ沢	米 23 小豆 1			166	300	100	658	1貫 020	162
下田～田子内	米 7.5			252	700	150	444	685	218
蛭川～肴沢				183	350	50	552	980	210
岩井川～入道森				251	700	100	618	1貫 375	197
手倉	米 2 大豆 1.5			315	760	50	318	570	210
椿台	大豆 1			300	550	100			
五里台				300	300	300			
谷地・天郷				256	550	150			
大柳・草ノ台				347	600	20			
菅ノ台				417	800	200			
檜山台				900	900	900			
計				2877斤			564匁		

※「大福帳」による。※「秋田県史近世編下」P103

国 安 寛

第19表 明治18年(1885)雄勝郡旧稲庭親郷主要物産調

物産名 村	生糸 %	真綿 %	桑葉 %	葉藍 %	苧 斤 %	楮 %	半紙 帖 %	薪 張 %	麻糸 %	干温 % 此	蓑類 枚 %	漆器 個 %	そ の 他
八 面	37	8	7,680	3,500								150	
	5.7	8.4	4.9	19.8								8.7	
東福寺	56.4	12	12,000	1,200		807	12,000	500	75				
	8.9	12.6	7.6	6.8		19.3	32.4	9.5	13.8				
大 門	6	1	660	350		300							
	0.9	1.1	0.4	2.0		7.2							
三 又	29.5	5,750	5,570	871		150							木綿200反 蘿蔔35000本
	4.6	6.0	3.5	4.9		3.6							
大 倉	13.3		2,500	250				250	12				
	2.1		1.6	1.4				4.8	2.2				
戸 波	10.2		650	1,200							4.500		菜蔬500貫 串柿2500連 漬柿70俵
	1.6		0.4	6.8							42.9		
大 館	50	4.5	5,500	300				20				1,000	
	7.9	4.7	3.5	1.7				3.7				58.1	
川 連	118	23.5	28,500	1,200		1,300	10,000					450	蚕種750枚 茶7貫500目 蕨13000枚
	18.6	24.6	18.1	6.8		31.2	27.0					26.2	
三 梨	96	6,5	40,000	3,000		1,200	10,000		200			120	芥3400枚
	15.1	6.8	25.4	17.0		28.8	27.0		36.7			7.0	
宮 田	8.5		3,500	550	1,200				28		1000		小麦100石
	1.3		2.2	3.1	3.0				5.1		9.5		
飯 田	8	3	3,000	1,200	2,500						5000		荏40石
	1.3	3.1	1.9	6.8	6.3						47.6		
稲 庭	83	10	171,00	3,550	13,000	400	5,000	1,500		300			賀多久利粉30貫 炭20000貫
	13.1	10.5	10.9	20.1	33.0	9.6	13.5	28.6		100			
川 向	47.8	10.3	9,500	500	5,750	12,800		2,500	150				葎類1600貫,紫蕨350貫 蕨粉15貫,木羽10万枚, 干推葎5貫,水漆10貫, 炭10万貫,極木1500挺
	7.5	10.8	6.0	2.8	14.6	0.3		47.6	27.5				
島 等	72	11	21,200		17,000			500	60				紫蕨800貫,晒蕨粉10石 5斗葎500挺生葎700貫 菅蕨520枚,炭3万5千貫
	11.3	11.5	13.5		43.1			9.5	11.0				
計	635,7	95.55	157,360	17,671	39,450	4169.8	37,000	5,250	5,45	300	10,500	1,720	
	99.9	100.1	99.9	100	100	100	99.9	100	100	100	100	100	

※「雄勝郡村誌卷之二」より

十郎の見解がほぼ一致する。すなわち、養蚕と蓆の生産地域が異なること、また、第17表を重ねてみてもそのことが符合する。第17表に魔って考えると、田子内村はいずれの主要物産でも第一位の生産比率を示していることがわかる。

つぎに第19表によって旧稲庭親郷内14か村の主要物産をみよう。「生糸」は川連(18.6%)・三梨(13.5%)・稲庭(13.1%)・畠等(11.3%)の4か村で当親郷の58.1%をしめる。「真綿」は川連(24.6%)・東福寺(12.6%)・畠等(11.5%)・川向(10.8%)・稲庭(10.5%)の5か村で60.0%をしめる。「桑葉」は三梨(25.4%)・川連(18.1%)・畠等(13.5%)・稲庭(10.9%)の4か村で67.9%をしめる。「葉藍」は稲庭(20.1%)・八面(19.8%)・三梨(17.0%)の3か村で56.9%をしめる。以上の養蚕関係と葉藍の比率の特色は、旧狙半内親郷の田子内にみられる集中性がなく、3～5か村で50%～60%といった分散性を示している。つぎに「蓆」は畠等(43.1%)・稲庭(33.0%)・川向(14.6%)の3か村で90.7%をしめる。「楮」は川連(31.2%)・三梨(28.8%)・東福寺(19.3%)の3か村で79.3%をしめる。「半紙」は東福寺(32.4%)・川連(27.0%)・三梨(27.0%)・稲庭(13.5%)の3か村で72.9%をしめる。「薪」は川向(47.6%)・稲庭(28.6%)2か村で76.2%をしめる。「麻糸」は三梨(36.7%)・川向(27.5%)・東福寺(13.8%)の3か村で78.0%をしめる。「干温鈍」は稲庭100%であって現在と変わらない。「蓆類」は飯田(47.6%)・戸波(42.9%)・宮田(9.5%)の3か村で100%であるが、現在に引き継がれているのは戸波のみであるので、この点も興味深い。「漆器」は大館(58.1%)・川連(26.2%)・三梨(7.0%)の3か村で100%である。「その他」では、「木綿」は三又の200反で雄勝郡ではこの村のみが生産地である。「蚕種」は川連750枚で郡内では湯沢・杉沢新処と3か所である。「箆」は三梨3400枚で郡内1か所である。同様なことは、「賀多久利粉」稲庭30貫・「木羽」川向10万枚・「椀木」川向1500挺・「轄」畠等500挺・「菅筵」は畠等520枚・「水漆」は川向10貫もそれぞれ郡内において1か村のみの生産地である。また、「蓆」は川向(64.5%)・畠等(22.6%)・稲庭(12.1%)の3か村で99.2%の大部分を生産する。以上のように主要物産の「蓆」以下は集中性がみられ、とくに1か

村のみの物産も多いこと、その物産の多様な点がこの地域の特色といえよう。村別にみると、旧狙半内親郷内の田子内村ほど比率は高くないが、川連・三梨・稲庭の3か村は各物産の比率が高い方である。

つぎに第20表によって旧横堀親郷14か村(院内銀山町を除く)の主要物産をみよう。「生糸」は下院内(29.7%)・上院内(14.2%)の2か村で43.9%と低い。「真綿」は下院内(67.4%)・上院内(18.8%)の2か村で86.2%である。「桑葉」は下院内(48.1%)・上院内(30.6%)の2か村で78.7%である。このように養蚕関係は下院内と上院内に集中している。「葉藍」は相川(53.0%)・役内(18.4%)・酒時(16.1%)の3か村で87.5%をしめる。「蓆」は高松(37.6%)・桑崎(24.1%)・相川(17.5%)の3か村で79.2%をしめる。「茶」は下院内(42.0%)・桑崎(21.0%)・相川(17.5%)の3か村で80.5%をしめる。この3つの物産については、最高比率の村が異なるが、相川は上位3番目以内に入っている。「麻糸」は川井(51.3%)・中村(48.7)の2か村で100%をしめる。「炭」は上院内1か村で82.2%をしめる。「馬」は役内(38.7%)・川井(20.0%)・中村(10.0%)・桑崎(10.0%)の4か村で78.7%となる。「その他」の物産では「鯉魚」横堀(10万足)・小野(2万足)・寺沢(2万5千足)で計14万5千足となる。「薄荷水」(1貫120目)・「薄荷精」(1貫120目)は郡内では小野村のみ生産している。「狗背」(500貫)は上院内村のみである。また、「鍛台」(6千挺)・カエンギ(3,500枚)は役内村のみであり、山村の物産として特徴的である。また、「建築石」は下院内(2千間)・桑崎(200間)があり現在まで続いた物産である。

続いて第21表によって旧湯沢親郷2か町13か村をみよう。「生糸」は湯沢(62.2%)1か町のみが突出しており、他は10%以下である。「真綿」は上関(87.7%)が群を抜き、湯沢(10.5%)の2か所で98.2%の殆んどをしめている。「桑葉」は湯沢(54.6%)・関口(13.0%)・下関(11.2%)の3か所で78.8%となっている。この養蚕関係は湯沢町の比率が高い。「葉藍」は関口(76.0%)・上関(24.0%)の2か村で100%をしめる。「蓆」は旧湯沢親郷管内では関口村のみの生産である。「茶」は湯沢(52.7%)・杉沢(18.3%)・岩崎(18.1%)の3か所で81.9%となる。「楮」

国 安 寛

第20表 明治18年(1885)雄勝郡旧横堀親郷主要物産調

物産 村	生糸 貫%	真綿 貫%	桑葉 貫%	葉藍 貫%	苧 斤%	茶 貫%	麻糸 貫%	薪 貫%	炭 貫%	馬 頭%	そ の 他
横 堀	15	3	5,000			7					鯉魚10万足
	1.8	0.5	0.9			9.8					
小 野	55	12	20,000			3					鯉魚2万足,薄荷水1貫120目,薄荷精1貫120目,砥石700切
	6.7	2.1	3.4			4.2					
下 院 内	245	389	283,000			30		1500,000	30,000		木材50万材, 建築石(方2尺)2千間
	29.7	67.4	48.1			42.0			8.2		
上 院 内	117	108,480	180,000					1300,000	300,000		狗背 <sup>くま</sup> 500貫
	14.2	18.8	30.6						82.2		
院内銀山(町)											
寺 沢	18	4	3,500			1			5,000		鯉魚2万5千足
	2.2	0.7	0.6			1.4			1.4		
中	69	16	16	50	200		91	棚100	3,000	15	芋麻50貫, 茸100貫
	8.4	2.8	0.001	1.2	0.3		48.7		0.8	10.0	
川 井	72		36,600	150	200		96	棚50	1,000	30	茸20貫, 芋3貫
	8.7		6.2	3.5	0.3		51.3		0.3	20.0	
役 内	60	6	9,500	800	5,000			棚150	300	58	茸300貫, 鋏台6千挺 カエシギ3,500枚
	7.3	1.0	1.6	18.4	6.7				0.1	38.7	
高 松	25	2.5	5,500	100	28,000			棚50	20,000	7	茸700, 干紫蕨2万貫 硫黄9960貫
	3.0	0.4	0.9	2.3	37.6				5.5	4.7	
宇留院内	15	1.5	3,700	100	6,000				5,900		干紫蕨50貫
	1.8	0.3	0.6	2.3	8.1				1.6		
相 川	34	8	8,900	2,300	13,000	12.5				10	楮120貫
	4.1	1.4	1.5	53.0	17.5	17.5				6.7	
桑 崎	37	9	12,700	100	18,000	15				15	楮70貫, 建築石200間
	4.5	1.6	2.2	2.3	24.1	21.0				10.0	
泉 沢	40	12	13,000	40	2,000	3				10	栗70石
	4.9	2.1	2.2	0.9	2.7	4.2				6.7	
酒 蒔	22	6	7,000	700	2,000					5	
	2.7	1.0	1.2	16.1	2.7					3.3	
計	824	577,48	588,416	4,340	74,400	71.5	187		365,200	150	鯉魚14万5千疋, 茸1120貫, 楮190貫, 干紫蕨2万50貫
	100	100.1	100.001		100	100.1	100		100.1	100.1	

※「雄勝郡村誌卷之四」

藩政後期・明治前期における雄勝郡の産業構造

第21表 明治18年(1885)雄勝郡旧湯沢親郷主要物産調

村	物産	生糸 貫%	真綿 貫%	桑葉 貫%	葉藍 貫%	苧 斤%	茶 貫%	楮 貫%	蚕種 枚%	蘿蔔 本%	薪 張%	そ の 他
湯沢(町)		221.430	42	54.457			86,400		1,235			
		62.2	10.5	54.6			52.7		62.2			
杉沢新処		1,200		250			0,500		750	3,700		米造縄125束, 中俵 1500俵
		0.3		0.3			0.3		37.8	17.1		
杉 沢		3,500		920			30,000	210			1,500	
		1.0		0.9			18.3	9.3			100	
成 沢		5,500		500				150				
		1.5		0.5				6.6				
岩崎(町)		5,500		2500			29,700	930				
		1.5		2.5			18.1	41.0				
二井田		4,800		1,350			0,300	80				
		1.3		1.4			0.2	35				
角 間		15 000		4,500				700				真瓜3万5千顆(粒)
		4.2		4.5				30.8				
森		5,000		850			7,500			18,000		蕪菜330束
		1.4		0.9			4.6			82.9		
金 谷		4,500		750								
		1.3		0.8								
八 幡		13,000		1,500								真瓜300籠
		3.6		1.5								
倉 内		13,000		2,500			7,500					白葡萄200貫 草履3500足
		3.6		2.5			4.6					
柳 田		5,200		2,400			2,000					草履・草鞋1700束
		1.5		2.4			1.2					
関 口		23,000	5,600	13,000	950	1,563		200				麻糸15貫, 建築石2 千切, 菜蔬500荷
		6.4	1.4	13.0	76.0	100		8.8				
上 関		7,000	350,00	3,200	300							菜蔬800荷
		2.0	87.7	3.2	24.0							
下 関		30,000	1,600	11,148								菜蔬600荷
		8.4	0.4	11.2								
計		357,63	399,2	998,25	1,250	1,563	163,9	2,270	1,985	21,700	1,500	菜蔬1900荷
		100.2	100	100.2	100	100	100	100	100	100	100	

※「雄勝郡村誌巻之一,四」関口以下は第四巻

は岩崎(41.0%)・角間(30.8%)の2か所で71.8%である。「蚕種」は湯沢(62.2%)・杉沢新処(37.8%)の2か所で100%となっている。「蘿蔔」は森(82.9%)・杉沢新処(17.1%)の2か村で100%となる。「薪」は杉沢(100%)である。「その他」では薬工品としての「米造縄」杉沢新処(125束)・「中俵」杉沢新処(1,500俵)や、「草履・草鞋」柳田(1,700束)・倉内(3,500足)がみられるし、農産物としての「真瓜」角間(3万5千顆)・八幡(300籠)、「白

葡萄」倉内(200貫)、「菜蔬」は森(330束)・関口(500荷)・上関(800荷)・下関(600荷)といった畠物が目立つ。また、「建築石」は関口(2,000切)も伝統的な物産である。

つぎに第22表によって、旧西馬音内前郷・山田両親郷管内16か村の物産をみよう。「生糸」は山田(28.3%)・大久保(12.1%)・貝沢(10.9%)・深堀(10.1%)の4か村で61.4%となり、分散的である。「真綿」は杉宮(42.5%)・西馬音内(40.2%)・郡山(17

国 安 寛

第22表 明治18年(1885)雄勝郡旧西馬音内前郷・山田親郷主要物産調

村	物産	生糸 貫%	真綿 貫%	桑葉 貫%	葉藍 貫%	苘 斤%	茶 貫%	楮 貫%	麻 貫%	炭 貫%	薪 %	そ の 他
西馬音内		15	3,5	1,500			45	500				馬15頭
		6.1	40.2	3.3			46.3	48.5				
大 戸		3,5		1,200								
		1.4		2.6								
野 中		11		2,000								藁1200枚
		4.4		4.4								
糠 塚		3		1,000								大根6000本 牛房2尺丸600束
		1.2		2.2								
足 田		2		350	100		1,6	30				半紙7万帖
		0.8		0.8	40.0		1.6	2.9				
郡 山		5,7	1.5	850								
		2.3	17.2	1.9								
高尾田		5		50	120							
		2.0		0.1	48.0							
島田新田		10,5		1,300	30							
		4.2		2.9	12.0							
杉 宮		15	3,7	3,000								大根13700本 菓子20貫
		6.1	42.5	6.6								
大久保		30		5,000			10					
		12.1		11.0			10.3					
赤 袴		10		1,000			5,7					
		4.0		2.2			5.9					
貝 沢		27		3,160			20					
		10.9		7.0			20.6					
山 田		70		16,000			15	500				干柿(串柿500連, 釣柿1万5千顆)
		28.3		35.2			15.4	48.5				
深 堀		25		6,000								柿3万2千顆
		10.1		13.2								
松 岡		10		2,000		30			500	1,000	10貫	菜種10石、蕪菜1千束
		4.0		4.4		100			94.3	11.8		
石 塚		5		1,000					30	7,500	100張	葛葉2万把
		2.0		2.2					5.7	88.2		
計		247,7	8.7	45,410	250	30	97.3	1,030	530	8,500		大根19700本
		99.9	99.9	100	100	100	100.1	99.9	100	100		

※「雄勝郡村誌卷之六」赤袴以下は山田親郷

.2%)で99.9%であって集中的である。「桑葉」は山田(35.2%)・深堀(13.2%)・大久保(11.0%)の3か村で59.4%となる。生糸と同様に分散的である。「葉藍」は高尾田(48.0%)・足田(40.0%)・島田新田(12.0%)3か村で100%となる。「苘」は松岡

(30斤)のみである。「茶」は西馬音内(46.3%)・貝沢(20.6%)・山田(15.4%)・大久保(10.3%)の4か村で92.6%をしめる。「楮」は西馬音内(48.5%)・山田(48.5%)の2か村で97.0%となる。「麻」は松岡(94.3%)・石塚(5.7%)の2か村で100%

藩政後期・明治前期における雄勝郡の産業構造

第23表 明治18年(1885)旧西馬音内堀回親郷主要物産調

村	物産	生糸 貫%	真綿 貫%	桑葉 貫%	葉藍 貫%	苘 斤%	麻 貫%	木材%	炭 貫%	薪 張%	馬頭 %	その他
西馬音内堀回		150	48	60,000				杉材50,000材			55	
		46.0	74.4	43.7				杉板2,000間			26.6	
飯 沢		80	15	50,000			50	60,000材	100,000	2,800	51	茸20駄
		24.5	23.3	36.4			99.0		59.8		24.6	
床 舞		5.7		1,700					1,500	50		
		1.8		1.2					0.9			
田 沢		5		1,300	50			3,500	2,000	50		
		1.5		1.0	15.9				1.2			
鹿 内				600					1,500	50		
				0.4					1.0			
新 町		4.5		350								陶器30荷
		1.4		0.3								
堀 内		0.5		200								陶器9千貫
		0.1		0.2								
拂 体		0.3		150					1,600	棚100		松木10棚
		0.1		0.1					1.0			
水 沢		8	1.5	2,700						棚15	4	松茸100本
		2.5	2.3	2.0							1.9	
林 崎		1		250			0.5				5	
		0.3		0.2							2.4	
大 沢		15		1,500					13,000	張500		松茸100貫
		4.6		1.1					7.8			
上 到 米		4		1,800					5,000		6	
		1.2		1.3					3.0		2.9	
田 代		25		3,500	200	500		2,160	3,000	棚20	15	椀板300間, 戸50間 障子50間
		7.7		2.6	63.5	47.6			0.9		7.3	
下 仙 道		4.2		4,000	65	300		杉板300間	5,000		12	戸30間, 障子30間
		1.3		2.9	20.6	28.6			3.0		5.8	
中 仙 道		15		3,285				杉板200間	1,500		10	障子30間
		4.6		2.4					1.8		4.8	
上 仙 道		5		1,000				杉板300間	3,000		14	戸300間, 障子200間
		1.5		0.7					1.8		6.8	
軽 井 沢		3		5,000		250			30,000		35	戸障子35間 茸300貫, 野菜25荷
		0.9		3.6		23.8			18.0		16.9	
計		326.2	64.5	137,335	315	1,050	50.5	杉材61,660材	167,100		207	戸障子725間
		100	100	100.1	100	100	100	杉板2,800間	100.2		100	

※「雄勝郡村誌卷之五」

となる。「炭」は石塚(88.2%)・松岡(11.8%)の2か村で100%となる。葉藍以下の物産は集中性が高いといえる。また、「その他」では「半紙」足田(7万帖)は旧稲庭親郷管内4か村(3万7千帖)の2倍近い生産量をもつ。「大根」は杉宮(13700本)・糠塚(6千本)計19700本となる。「柿」類は山田(串柿500連・釣柿1万5千顆)・深堀(柿3万2千顆)も特色ある物産である。また、「菜種」は郡内で松岡(10石)のみであり、「葛葉」も同様に石塚(2万把)のみである。さらに「菓子」杉宮(20貫)も特色ある物産といえよう。

ついで第23表によって旧西馬音内堀回親郷管内17か村の主要物産をみよう。「生糸」は堀回(46.0%)・飯沢(24.5%)の2か村で70.5%をしめる。「真綿」は堀回(74.4%)・飯沢(23.3%)の2か村で97.7%の殆んどをしめる。「桑葉」は堀回(43.7%)・飯沢(36.4%)の2か村で80.1%をしめる。このように養蚕関係は堀回村と飯沢村に集中していることがわかる。「葉藍」は田代(63.5%)・下仙道(20.6%)・床舞(15.9%)の3か村で100%となる。「葛」は田代(47.6%)・下仙道(28.6%)・軽井沢(23.8%)で100%となる。この2品目については、田代ついで下仙道に集中しているといえよう。「麻」は飯沢(99.0%)が殆んどを生産する。「炭」は飯沢(59.8%)・軽井沢(18.0%)の2か村で77.8%となる。「馬」は堀回(26.6%)・飯沢(24.6%)・軽井沢(16.9%)の3か村で68.1%をしめる。麻以下の物産ではいづれも飯沢村の比率が高い。また「その他」では「陶器」堀内(9千貫)・新町(30荷)が「堀内焼」を示すものである。「戸障子」は田代(戸50間・障子50間)・下仙道(戸30間・障子30間)・中仙道(障子30間)上仙道(戸300間・障子200間)・軽井沢(戸障子35間)で戸障子計725間は郡西部山間村の特色ある物産であり、郡内でもこの地域のみで生産される。

#### IV 鹿野島と特定物産

第24表は明治9年(1876)秋田県郡別鹿野島・切換島の面積と比率である。「鹿野島」は雄勝郡56.8%、平鹿郡40.9%で計97.7%の大部分をしめ、他郡は由利・河辺郡を除いて1%以下存在する。切換島は逆に北秋田郡が91.3%で平鹿・由利・南秋田・河辺・南秋田

第24表 明治9年(1876)秋田県郡別鹿野島 切換島

郡	地目	鹿野島	%	切換島	%
南秋田	セ			セ	
北秋田		545.25	0.8	23548.27	91.3
河辺					
由利					
山本		704.06	1.1		
鹿角		19.26	0.01	651.01	2.5
仙北		222.01	0.3	1040.08	4.0
平鹿		26611.25	40.9		
雄勝		36907.18	56.8	535.27	2.1
計		65011.11	99.901	25776.03	99.9

※「北羽発達史下」P557~568

郡を除いてわずかに存在する。この名称の違いが実態の違いを示すか、現在のところ判明しない。「地方凡例録」では

一、焼畑チヤクハタと云ハ里方にハなく、山中にあることにて、信州に尤も多く、上州榛名山・赤城山などの様なる処、畑地カヤクサにてハなく山の片岨カタソバの小柴草立コシバクサの処を、小柴草とも焼て一雨受させ、灰の湿りたる処へ蕎麦ソウベ・粟アビ・稗等を蒔付け、(中略)之を切替畑とも藪畑とも云ひ(中略)

一、鹿期畑カノヘダと云ハ、重ソモに出羽デ・奥州ウチウ等にて唱え極山中にある切替畑・焼畑と同様なれども、鹿野畑は高計りにて、無反別に作物付付方ハやはり焼畑同然なり、(下略)<sup>10)</sup>

として、この文意からすれば、焼島・切替島・藪島・鹿野島は、特定地域の名称と考えられる。古島敏雄氏もその見解をとっている<sup>11)</sup>。明治9年(1876)地租改正の際に第7大区1小区(旧稲庭・狙半内親郷)の副戸長からつぎのような「御伺」が地租改正取調処に提出されている。

一、山中ニ転在セル切替島若干ヲ不論ケ処キリ取調候ハ勿論ナレモ作付兩三年間ニシテ地味相衰ヒ切替致ト雖必ス隣地ニノミ地替地アルニアラス村民数多適宜ノ地ヲ見斗意切替致候例ニ付公貫地一定不致谷間山陰高低遠近多分ナリ然ルニ年々ノ変換取調遺漏ナキニアラス依テ切替地ノ有ル何々ノ山ノ内堅横何間ト切替地トシ内何分現今作付見込右ニ相当ル地租金ハ一村適宜ニ割合取入致度趣<sup>12)</sup>

と伺ったが「事故詳細取調更ニ可伺出事」と却下されている。これは、年によって、耕作地の異なる切替

(写真1)



島の測定の困難を訴え、現在作付している分の地租金を村に割り当てる、という趣旨である。この第7大区1小区は切替島が僅少であることを第3表でみたとおりである。事実、「平鹿郡増田町狙半内字古家沢の土地台帳<sup>13)</sup>」には、

字古家沢 第十六番 等外三等 <sup>(朱書)</sup> 鹿野島  
 一、畑 反則式反九畝廿六歩 (氏名)  
 此地価金三円五拾銭五厘  
 此地租金八銭八厘

とあって、名称は明らかに「鹿野島」であるが、「写真1<sup>14)</sup>」にあるように、白く塗りつぶし(X印)をしたか所がかつての鹿野島であると考えられるから、明治9年「御伺」の事実と符合し、「鹿野島」は「切替」の性質をもっているのも、同一とみられる。ただし、第24表でみたように、「鹿野島」は県南部に、「切換島」は県北部にある問題は依然として残るので究明の余地がある。

つぎに第25表で狙半内・稲庭・横堀・西馬音内堀回旧四親郷の特定物産と鹿野島(切換島)との関係を見よう。この旧四親郷は鹿野島97.7%・切換島100%が入る地域であり、それと養蚕・苧の関係を見ようとするものである。まず地域的にみて、鹿野島(切換島)のある村で生糸・桑葉・苧の生産比率の高い地域は旧狙半内親郷で、93%以上である。ついで旧稲庭親郷、そして苧生産と関連のない旧西馬音内堀回親郷であり切換島が大部分である旧横堀親郷は、比率が低い。特定物産では旧西馬音内堀回親郷を除いて、苧生産との関連比率が高い。

明治10年(1877)第七大区第一小区雄勝郡川連村で

は、桑畑26町3反1畝18歩を「等外島鹿野島ト換称願」を秋田県権令石田英吉宛に提出している。その理由を「(前略)峻嶺地切開地桑付年々ト刈等致候而已ニテ畝ヲ以テ掘り返ス事モナクシテ普通之畑方トハ格別異ナル地処ニ御座候(中略)本島ニ組込ミ收穫尠反当老村平均之見積リニ至リ大ニ不都合相生シ候(下略)<sup>15)</sup>」として、この桑畑は普通本島より生産力が低く、等外島としての「鹿野島」と同様の生産力の場所であるとしている。古島敏雄氏は「(前略)越前国大野郡にも『むつじ』と呼ぶ切替山畑があるが、これらにも養蚕の盛行と共に桑の植えられることもあったのであろう。<sup>16)</sup>」として、切替島から桑畑の移行の可能性を示唆している。

また、「地方凡例録」では、「焼畑(切替畑)は「石盛等も至て低く、山畑よりも下々なり、<sup>17)</sup>」とし、「鹿野畑」も「至て下免にて少々年貢を納め、<sup>18)</sup>」として、年貢対象地としているが、秋田藩では「鹿野島」が課税対象となっている資料を発見しないし、むしろ「山役銀」として一括して納入したと思われる。明治4年(1871)第16大区第2小区大館村では、合計8町2畝17歩(内7町5反5畝15歩桑畑・4反7畝2歩萩林)を「無税地桑畑萩林順番書抜帳」<sup>19)</sup>として提出している。つまり、「鹿野島」から「桑畑」への変換は無年貢地の観念を無税地に置き換えた結果と思われる。もちろん、地租改正によって民有山林等は課税対象となり、それに内包されている「鹿野島」も等外島として課税対象となった。しかし、藩政期においては、古島敏雄氏のいわれる「隸属小作人の生活農業としての焼畑<sup>20)</sup>」はもっと重視しなければならない観点であろう。

つぎに藩政後期において、現地をよく観察し、殖産興業策を献言している雄勝郡川連村関喜内と平鹿郡増田村出身の山中新十郎は、養蚕の開発等についてどのような計画をもっていたかを検討しよう。まず、関喜内は文政3年「牛嶋御野場御忠進願書<sup>21)</sup>」において、「此度牛嶋新田村下分新屋下まで御野場手廣之空地伊達本場地所ニ相似候故右場所ニ而桑畑開発仕桑苗木取立村々江引配為植立養蚕仕」として、具体的に河辺郡御野場の空地を開発して桑畑にする計画である。そして「六郡川辺々々ハ不及申ニ所々之空地野谷地其村方ニ而桑畑場合開発仕候而御高も四五千石位ハ僅時ニ出

第25表 明治前半期雄勝郡旧四親郷特定物産及び鹿野畠(切換畠)

村	狙 半 内			
	生糸 貫	桑葉 千貫	苧 千斤	鹿野畠(切換)
萩 袋	○75	○ 7		14 七
熊 渕	7.7	0.6		
湯野沢	○25	○3.6	○2.3	
吉 野	18.5	4.5	○0.35	5246.26
狙半内	○120	○15	○6.72	5246.26
田子内	○250	○35	○45	4144.16
岩井川	○70	○10	○10	1135.00
椿 川	○25	○ 9	○38	4792.21
○小計	56.5	79.6	10.2.02	
	95.7%	93.7%	99.7%	
計	590.7	85	102.37	(切56.18) 15333.03
郡 %	19.8	7.6	46.8	(切44.9) (切10.6)

※「雄勝郡村誌卷之三」

村	稲 庭			
	生糸 貫	桑葉 千貫	苧 千斤	鹿野畠(切換)
八 面	37	7.68		七
東福寺	56.4	12		
大 門	6	0.66		
三 又	29.5	5.57		
大 倉	13.3	2.5		
戸 波	10.2	0.65		
大 館	○50	○5.5		1831.06
川 連	○118	○28.5		2631.18
三 梨	○96	○40		241.11
宮 田	8.5	3.5	1.2	
飯 田	8	3	2.5	
稲 庭	○83	○17.1	○13	984.26
川 向	○47.8	○9.5	○5.75	62.17
畠 等	○72	○21.2	○17	8584.00
○小計	466.8	121.8	35.75	
	73.4%	77.4%	90.6%	
計	635.7	157.36	39.45	14335.18
郡 %	21.3	14.1	18.0	42.6

※「雄勝郡村誌卷之二」

村	横 堀			
	生糸 貫	桑葉 千貫	苧 千斤	鹿野畠(切換)
横 堀	13	5		七
小 野	55	20		
下院内	245	283		
上院内	117	180		
院内銀山(町)				
寺 沢	18	3.5		
中	69	0.016	0.2	
川 井	○72	○36.6	○0.2	2.14
役 内	60	9.5	5	

高 松	○25	○5.5	○28	(切353.19)
宇留院内	○15	○3.7	○ 6	(切42.23)
相 川	○34	○8.9	○13	(切73.28 )
桑 崎	37	12.7	18	
泉 沢	40	13	2	
酒 蔭	22	7	2	
○小計	146	54.7	47.2	
	17.7%	9.3%	63.4%	
計	824	588.416	74.4	(切2.14) (切476.16)
郡 %	27.6	52.9	34.0	(切0.006) (切89.4)

「雄勝郡村誌卷之四」

村	西 馬 音 内 堀 回			
	生糸 貫	桑葉 千貫	苧 千斤	鹿野畠(切換)
西馬音内堀回	○150	○60		2857.16
飯 沢	○80	○50		535.26
床 舞	5.7	1.7		
田 沢	5	1.3		
鹿 内		0.6		
新 町	4.5	0.35		
堀 内	0.5	0.2		
拂 体	0.3	0.15		
水 沢	○ 8	○2.7		79.02
林 崎	1	0.25		
大 沢	15	1.5		
上到米	4	1.8		
田 代	25	3.5	0.5	
下仙道	4.2	4	0.3	
中仙道	15	3.285		
上仙道	5	1		
軽井沢	3	5		
○小計	238	112.7	0.5	10.2
	73.0%	82.1%		
計	326.2	137.335	0.25	
	10.9	12.3	1.05	3472.14

「雄勝郡村誌卷之五」

高ニ相成可申伊達之様ニ開ケ候ハ、手廣之御領内故老萬石や貳萬石之出高地可有之哉ニ奉存候左候得ハ大イなる御国益ニ奉存候」として、河辺郡のみならず、六郡の空地野谷地を桑畑に開発すれば、伊達のように開発した場合1～2万石の出高となるとしている。そして「開発場熟畑ニ罷成御竿被入置出高ニ相成候ハ、御割合御積り以辛労免被下置願上候」として、熟畑になった場合には、検地を実施して高に編入し、同時に辛労免を拝領したいと願っている。つまり、関喜内は本畠に桑を植えるのではなく、空闲地を開発して桑畑に

第26表 享保年間郡別村平均戸数・人口

郡	享保15年戸数	享保6年人口
秋田	54	397
山本	93	515
河辺	62	355
仙北	69	367
平鹿	80	373
雄勝	104	521
平均	71	409

※拙稿「秋田藩における村の規模」『秋田史学23』P10

には「式千五百軒余之場所御座候得共皆々沢目にも無御座候間式千軒と見る右場所へ雑穀仕付候儀申付候是又不少出来可申候五六年以前迄も狩野と申而山を堀り候而村々ニ而雑穀ヲ取候得共此節は御高之有候田畑ニ而スリヤ仕付兼罷有候間中々狩野之沙汰も無之候程ニ罷成申候然ば右場所へ不相替慈愛を施し狩野ヲ取進候而既ニ式万俵位も出来可申と奉存候（中略）耆俵に付耆貫五百文替尤三斗入耆俵に付式万俵之代銭三万貫文也此金四千四百拾耆兩耆朱但し六貫八百文兩替と見る<sup>22)</sup>」として、雑穀の生産の場を「狩野」＝「鹿野」とし、2万俵4411両余の収入を計画している。山中新十

する計画であって、高として登録されていない山林原野をその対象としている。従って、その中には鹿野島も含まれるのは当然のことであろう。さきにあげた明治4年（1871）雄勝郡大館村の「無税地桑畑枚林」の観念は、このように高として登録されない土地という意味において一致する。また、山中新十郎は沢目の糞・養蚕等の興産を献白しているが、天保6年（1835）

郎の場合は、鹿野島の生産をも興産計画の対象としている。これは沢目の鹿野島の存在という現実をみでの発想であろう。なお、15万坪を開発して桑植立の立案もある。また、山中新十郎は沢目の労働力について「今日ハ山へ也行バ眼前式百文にも三百文にも銭取に相成事有之候御握飯之用意も仕る様無之候時は乍残念只ニ休居候者沢々に数多有之申候然ば遊太に任セ善ニ附難シ悪には馴安キものに而終に夫は代と也働キ仕候事延引ニ罷成申候故斯万物不熟仕誠ニ歎ケ敷処ヲ私儀十二分察入夫々ニ手配仕御百姓衆へ貸附等を致引立申度奉存候得共广大之場所に御座候故御自力ニ及兼罷在候間乍恐此度以テ書附ヲ奉願上候間願之通被仰付度候無左モ引立不申指置候得ば遊太のものは家中内に而喧嘩等致動レバ博突ヲ致誠に今日之日ヲ無益ニ相暮シ候者沢目々々杯は莫大有之申候<sup>24)</sup>」としているが、沢目には「遊太」のものが多数存在し、秩序を保つ上でも問題があるとし、「仁徳を施し家業専ニ相励マセ申度心底<sup>24)</sup>」としている。これは、沢目農民と山中新十郎の労働観の相違があるとみてよいが、山間の自然に依存する労働形態と、山中新十郎の新しい商品生産の労働形態との違いであろう。つぎに「遊太」ものが多数存在する点について検討を加えよう。第26表は享保年間（1716～1735）秋田藩郡別一村平均戸数および人口である。藩平均戸数71戸であるが多いのは雄勝郡104戸について山本郡93戸・平鹿郡80戸である。人

第27表 郡別人口密度

郡別	年別		明治3年3月調		明治12年末調		明治18年末		備考
	人	口	人	口	人	口	人	口	
秋田	122,838	329人	117,892	1,571人	121,269	1,616	79,589	267人	○明治3年分は南北秋田の区別なし。士族は各郡別せず、町は秋田、土崎、能代を一括し、鉾山又をも分別せるため郡別分布の状況を知るに由なし、故に一方里当り人口は在方農工商のみのものとなる。 土族人口 ？,899 町方人口 28,244 鉾山方 9,803 上は総計欄に加算した。 同年分由利、鹿角に郡人口不明につき空欄とした。 明治18年末人口は年鑑第22表によれるが戸籍人口によらず現在人口を採用したものと認めらる。戸籍人口は648,358人である。
山本	44,585	401人	67,753	610人	70,130	631	30,484	725人	
河辺	23,519	559人	30,484	725人	30,955	737	72,746	418人	
仙北	72,746	418人	91,655	526人	97,298	553	57,696	2,622人	
平鹿	57,696	2,622人	72,040	3,274人	75,762	3,443	41,773	937人	
雄勝	41,773	937人	53,415	937人	56,251	986			
由利			78,845	1,407人	80,043	1,429			
鹿角			27,160	232人	30,133	257			
総計	432,488	555人	(由利鹿角除外) 512,828 618,833	(659) 768	(由利鹿角除外) 534,621 644,797	(686) 827			

※「秋田県史 明治編」P232～233

第28表 明治9年(1876)雄勝郡村別戸数人口

旧 狙 半 内 親 郷				旧 横 堀 親 郷				旧西馬音内前郷・山田親郷			
村 名	戸数	人口	一戸平均	村	戸数	人口	一戸平均	村	戸数	人口	一戸平均
荻 袋	76	486	6.4	横 堀	171	846	5.0	西馬音内	298	1,356	4.6
熊 渚	25	136	5.4	小 野	155	785	5.1	大 戸	53	286	5.4
湯野沢	34	193	5.7	下 院 内	250	1,161	4.6	野 中	47	262	5.6
吉 野	38	216	5.7	上 院 内	176	883	5.0	糠 塚	21	105	5.0
狙半内	165	963	5.8	院内銀山(町)	(530)	(2,345)	(4.4)	足 田	85	427	5.0
田子内	243	1,607	6.6	寺 沢	55	293	5.3	郡 山	63	332	5.3
岩井川	101	656	6.5	中 村	115	675	5.9	高 尾 田	42	225	5.4
椿 川	119	738	6.2	川 井	48	295	6.2	島田新田	43	283	6.6
計	801	4,968	6.2	役 内	76	419	5.5	杉 宮	105	532	5.1
				高 松	121	686	5.7	大 久 保	89	510	5.7
				宇留院内	39	218	5.6	赤 袴	43	236	5.5
				相 川	141	828	5.9	貝 沢	133	708	5.3
				桑 崎	130	698	5.4	山 田	261	1,254	4.8
				泉 沢	41	263	6.4	深 堀	105	547	5.2
				酒 蒔	38	199	5.2	松 岡	176	900	5.1
				計	1,556	8,249	5.3	石 塚	48	242	5.0
								計	1,612	8,205	5.1

※「雄勝郡村誌 卷之三」  
戸数は「社」を除く

旧 稲 庭 親 郷			
村 名	戸数	人口	一戸平均
八 面	142	802	5.7
東福寺	56	327	5.8
大 門	24	121	5.0
三 又	103	554	5.4
大 倉	37	214	5.8
戸 波	44	284	6.5
大 館	167	890	5.3
川 連	222	1,187	5.5
三 梨	269	1,560	5.8
宮 田	32	171	5.3
飯 田	36	197	5.5
稲 庭	303	1,543	5.1
川 向	254	1,408	5.5
畠 等	151	887	5.9
計	1840	10,145	5.5

「同卷之二」

口は藩平均409人で雄勝郡521人が最高であって、ついで山本郡515人・秋田郡397人・平鹿郡373人となっており、雄勝郡は戸数・人口共に第1位である。また、第27表でみると、明治3年(1870)一方里当り人口は、平鹿郡2,622人について雄勝郡937人で第2位であり、明治12年(1879)の場合は、平鹿郡3,274人・南秋田郡1,571人・由利郡1,407人・雄勝郡937人で4位である。明治18年(1885)も同様の順位である。従って、藩政期ほど人口が多いと思われる。服部之総氏も「この両郡の(雄勝・平鹿)の人口の密度

「同卷之四」  
※集計は銀山町除く

旧 湯 沢 町 親 郷			
村	戸数	人口	一戸平均
湯 沢(町)	1,311	6,192	4.7
杉 沢 新 処	36	164	4.6
杉 沢	60	284	4.7
成 沢	47	258	5.5
岩 崎(町)	318	1,345	4.2
二 井 田	57	283	5.0
角 間	70	381	5.4
森	69	484	7.0
金 谷	41	210	5.1
八 幡	99	512	5.2
倉 内	65	284	4.4
柳 田	51	217	4.3
関 口	131	722	5.5
上 関	83	395	4.8
下 関	72	367	5.1
計	2,510	12,098	4.8

「同卷之一、卷之四」  
関口以下は卷之四

※「同卷之六」  
赤袴以下は山田親郷

旧西馬音内堀回親郷			
村	戸数	人口	一戸平均
西馬音内堀回	146	742	5.1
飯 沢	81	478	5.9
床 舞	92	471	5.1
田 沢	36	215	6.0
鹿 内	19	110	5.8
新 町	79	500	6.3
堀 内	42	197	4.7
拂 体	32	164	5.1
水 沢	19	129	6.8
林 崎	25	142	5.7
大 沢	162	816	5.0
上 到 米	69	396	5.7
田 代	120	532	4.4
下 仙 道	78	439	5.6
中 仙 道	60	317	5.3
上 仙 道	72	454	6.3
軽 井 沢	95	564	5.9
計	1,227	6,666	5.4
合計	9,546	50,331	5.3

「同卷之五」

は他郡よりい  
くらか濃いと  
見なければな  
らぬから、天保巳年までは大体両郡では一村平均戸数八十軒以上だったと見てよからう<sup>25)</sup>と推定している。服部氏の推定は第26表とほぼ同じである。さて、藩政

中期・明治前半期の一村平均戸数・人口が他郡より高いことを確認した。つぎに雄勝郡内の状態を検討しよう。第28表は旧親郷別の各村戸数・人口および一戸平均である。第一に旧親郷の一戸平均人口を比較してみると、狙半内6.2人・稲庭5.5人・西馬音内堀回5.4人・横堀5.3人・西馬音内前郷および山田5.1人・湯沢4.8人の順であって、東部そして西部山間部をもつ地域が高く、平野部は低い。天保期(1830~1843)に山中新十郎が沢目に「遊太」のものが多い、とのべていることと符合する。とくに最高は旧狙半内親郷であるが、内部の村々をみると、田子内村が最高6.6人で岩井川・椿川と田子内より奥沢目が一戸平均人口が高い。また、旧稲庭親郷は戸波村6.5人で最高であるが畠等5.9人で親郷内2位である。旧横堀親郷では、泉沢村6.4人・川井6.2人・中村5.9人・相川5.9人であって、山間部が多い。旧湯沢親郷内では、森村が7.0人で最高であり、他は平均6人の村はない。旧西馬音内前郷・山田親郷は島田新田が6.6人で最高を示し他は5人以下である。旧西馬音内堀回親郷では、水沢6.8人・田沢6.0人となっている。山間部は田代4.4人のような少ない村もあって、全部平均人数が多いとはいえないが、概して多いといえる。

## V むすびにかえて—非石高地域の課題—

### ①非石高地域の変ぼう

近年、「稲作以前<sup>26)</sup>」や「畑作農村<sup>27)</sup>」が主として文化人類学や民俗学を研究する人びとから問題提起がなされている。これらを本論との関連でいえば「非稲作地域」とまとめることができる。しかし、非稲作の生業は、日本のみならずアジアひいては世界的な広がりをもつ概念であり、また、日本の歴史をみても縄文時代からの長い歴史を対象する概念である。そのような広がりや歴史を一応念頭に置くとしても、歴史的な限定を与えて対象を明確化して究明することが望ましい作業と考えるものである。当面、本論で対象とする時期は、藩政期および地租改正あたりまでであり、当社会は石高制に規制される時期でもある。その体制下であって、それとは異った地域、年貢関係とは一応、別個に生活する地域は「非石高地域」といえる。また、これは近年盛んに論議されている「辺境論」ともつながる意味をも内包している。

第28表 文政12年(1829)西馬音内堀廻村一村収支

① 収入の部			
	品 目	金 額	%
山の収入	ぜんまい代	約 35貫	
	年中山産物野菜代	100	
	正月門松柴より年中焚柴払分	50	
	葛葉代立馬飼料残売払分	35	
	萱代	50	
郷山より薪木材取他郷へ払分	80		
小計		350	14
糞加工	俵結糞代	30	
	中俵代	15	
小計		45	2
養蚕	桑売払分	20	
	飼蚕の利潤	250	
小計		270	11
商人手間	山内出物売買・染屋・職人の取銭	300	
	年中駄賃銭	100	
	前郷村米駄賃・木流し・かけはなし日用共	200	
	小計		600
米	1,049俵の代銭(1俵1貫600文)	1,216貫840文	49
合計		2,481貫840文	
② 支出の部			
生産関係	山刀鎌鋤・千歯こきその他農具	約 150貫文	
	拵1人150文		
	鐵台240丁代	9,760	
	皮箕139枚	31	
	臼拵ゆすり板唐箕等代	50	
	家宅小屋の破損手入料	70	
小計		310,760	9
衣	衣類・洗濯・働着共1人3貫文	1,530	42
酒費関係	吉凶私事物入御寺打飯米諸かかり	150	
	塩150俵4斗入1俵1貫400文	210	
	糞手作の外調分きせる煙草入代	150	
	年中本結髪付油刺刀櫛代	100	
	筆墨ろうそく代	50	
	器物桶修理代1軒400文	50	
	鍋類の修理代	25	
	魚代1日4文ならし	720	
	茶代	50	
	殺物屋根手入れ料	200	
医者薬礼御割合薬代	100		
小計		1,805	49
合計		3,645,760	
収支	この分の支払のため米売り銘々飯米不足	-1,163,920	

※「羽後町郷土史」P431

今まで分析してきた雄勝郡の産業構造からみて、本質的には、「非石高地域」の課題が設定できるように思われる。そして、これが本来の姿ではなく「変ぼう」する姿としてとらえる必要がある。具体的には、第29

国 安 寛

第30表 明治9年(1876)雄勝郡村別社数

旧狙半内親郷				旧稲庭親郷				旧横堀親郷			
村名	戸数	社	%	村名	戸数	社	%	村名	戸数	社	%
荻袋	76	5	6.6	八面	142	3	2.1	横堀	171	5	2.9
熊渕	25	4	16.0	東福寺	56	2	3.6	小野	155	9	5.8
湯野沢	34	3	8.8	大門	24	1	4.2	下院内	250	10	4.0
吉野	38	4	10.5	三又	103	2	1.9	上院内	176	5	2.8
狙半内	165	21	12.7	大倉	37	3	8.1	院内銀山(町)	(530)	(7)	(1.3)
田子内	243	36	14.8	戸波	44	3	6.8	寺沢	55	6	10.9
岩井川	101	11	10.9	大館	167	4	2.4	中村	115	13	11.3
椿川	119	18	15.1	川連	222	2	0.9	川井	48	6	12.5
計	801	102	12.7	三梨	269	13	4.8	役内	76	6	7.9
				宮田	32	5	15.6	高松	121	9	7.4
				飯田	36	4	11.1	宇留院内	39	4	10.3
				稲庭	303	21	6.9	相川	141	15	10.6
				川向	254	12	4.7	桑崎	130	6	4.6
				畠等	151	10	6.6	泉沢	41	4	9.8
				計	1,840	85	4.6	酒蒔	38	5	13.2
								計	1,556	103	6.6

※「雄勝郡村誌卷之三」

※「同卷之二」

※「同卷之四」集計は銀山町除く

旧湯沢親郷				旧西馬音内前郷・山田親郷				旧西馬音内堀回親郷			
村名	戸数	社	%	村名	戸数	社	%	村名	戸数	社	%
湯沢(町)	1,311	21	1.6	西馬音内	298	5	1.7	堀回	146	7	4.8
杉沢新処	36	1	2.8	大戸	53	11	20.8	飯沢	81	8	9.9
杉沢	60	2	3.3	野中	47	6	12.8	床舞	92	11	12.0
成沢	47	3	6.4	糠塚	21	7	33.3	田沢	36	5	13.9
岩崎(町)	318	10	3.2	足田	85	6	7.1	鹿内	19	2	10.5
二井田	57	3	5.3	郡山	63	9	14.3	新町	79	12	15.2
角間	70	6	8.6	高尾田	42	2	4.8	堀内	42	5	11.9
森	69	4	5.8	島田新田	43	3	7.0	拂体	32	9	28.1
金谷	41	3	7.3	杉宮	105	6	5.7	水沢	19	10	52.6
八幡	99	7	7.1	大久保	89	6	6.7	林崎	25	4	16.0
倉内	65	7	10.8	赤袴	43	3	7.0	大沢	162	10	6.2
柳田	51	3	5.9	貝沢	133	7	5.3	上到米	69	15	21.7
関口	131	9	6.9	山田	261	13	5.0	田代	120	26	21.7
上関	83	5	6.0	深堀	105	10	9.5	下仙道	78	12	15.4
下関	72	6	8.3	松岡	176	5	2.8	中仙道	60	9	15.0
計	2,510	90	3.6	石塚	48	1	2.1	上仙道	72	8	11.1
				計	1,612	100	6.2	軽井沢	95	8	8.4
								計	1,227	161	13.1
								合計	9,546	641	6.7

※「同卷之一・卷之四」関口以下は卷之四

※「同卷之六」赤袴以下は山田親郷

※「同卷之五」

表で文政12年(1829)雄勝郡西馬音内堀回村の一村収支をみよう。当村は山麓にあり、前にみたように、鹿野島・養蚕をもつ村である。収入面で米が49%・山の収入14%・養蚕11%・商人手間24%であって、計49%となる。商人手間の中には、山の物産販売その他が含まれる。このように養蚕等の産業が村の収入として定着していることは、第23表とつなげて考えたとき肯定できる。

これを今まで分析した雄勝郡を念頭に置く時、藩政期における「第二の土地開発」といえる。秋田藩前期は、田島造成の新田開発すなわち、第一の土地開発であったが、藩政後期は石高制に規制されない地域において、商品作物＝物産が生産されるという第一と異なる体質が生れている。これが、沢目の豊富な労働力を駆使する場合、新しい生産の母胎になりうることは予想できる。

## ②非石高地域の原型

山の生業に目を向けるとき、すでに第16表～23表でみたように多彩な生業がある。とくに、川向村の椀木・島等村の轄・役内村の鍛冶そしてカエシギ・田代村と三仙道村軽井沢村の戸障子はそれぞれの樹木を生かした細工物であって、明治18年(1885)には特産となっている。また、鹿野島についても第1表～10表で取り上げた。藩政期については、宝永3年(1706)「野火焼禁止<sup>28)</sup>」の法令をはじめ、いくつかみられるが、現在のところ法令の上で確認できるのは、文政8年(1825)2月の「六郡村々野火焼御停止之事<sup>29)</sup>」の中に「かの子きり」がみられるのみである。また、地域での資料は享保8年(1723)平鹿郡平ノ沢「口上書<sup>30)</sup>」に「此度当所石ぐた山江大平台剪申候故御披露仕候ニ付御尋之通御答申上候」とあるが、藩政期においては初期より存在すると思われるので、発掘したい。

また、正徳5年(1715)雄勝郡飯沢村の「万諸旨皆納割<sup>31)</sup>」があるが、蔵高割・総高割・人割があって、圧倒的に人割が多い。また、寛政7年(1795)雄勝郡下仙道村では「家役」があって、家役42軒・半役12軒・ $\frac{1}{4}$ 役2軒となって、一応所持高と一致するが<sup>32)</sup>、それのみでない要素も考えられる。これらを見ると、石高制では処理できない問題を含んでいる。

つぎに信仰関係を第29表は雄勝郡村々の「社」数を旧親郷別に表わしたものである。郡で641社あるが、

戸数との比率の高い旧親郷は、西馬音内堀回の13%・ついで狙半内12.7%・横堀6.6%・西馬音内前郷山田6.2%・稲庭4.6%・湯沢3.6%となっており、山間部の比率は高い。個別村をみると、西馬音内前郷管内の糠塚(33.3%)・大戸(20.8%)のように平野部でも比率の高い村があるが、西馬音内堀回管内の水沢(52.6%)・拂体(28.1%)・上到来(21.7%)・田代(21.7%)と山間部が高い。また、狙半内管内の田子内よりの奥沢目も低い比率ではない。これらは小社(祠)が多いと思われるが、安政6年(1859)「雄勝郡下仙道村絵図<sup>33)</sup>」には23社みられるし、現地調査では25社確認できた。ここは、総社八幡宮を中心に、山神4・才の神・稲荷・薬師・不動その他が存する。これからの問題として信仰の形態と生活の関連を追求する必要があると感じている。

以上のように、非石高地域の生業・生活・信仰そして発想の多様性等を追求して、その原型を見定めることが大きな課題である。

## 註

- 1) 「秋田藩における在郷商人の生成と発展」(『歴史』7), 「羽州川連村高橋家の経営」(『秋田大学学芸学部研究紀要』6), 「羽後川連村高橋家の経営の展開」(『秋大史学』7), 「近世漆器工業の研究(吉川弘文館)
- 2) 多くは「秋田県史近世編下」に収録
- 3) 「羽後国由利郡誌・村誌抄」本荘市長佐藤憲一氏「序」に代えて」(『本荘市史編纂資料』第12集)
- 4) 当館益子学芸主事の情報による
- 5) (秋田県立博物館蔵)
- 6) 「秋田県雄勝郡誌全」
- 7) 「同上」
- 8) 「旧秋田県史第4冊」には地租改正後と表示しているが「北羽発達史下」には明治9年の頃(P557～568)にあり、面積も一致するのでこの年代を用いた。
- 9) 「山中新十郎翁伝」P149～150, なお「秋田県史近世編下」P104拙稿分
- 10) 「地方凡例録上」P100～101
- 11) 「近世日本農業の構造」P279
- 12) 秋田県立博物館蔵「地租改正事務雑誌」第三号
- 13) 平鹿郡増田町役場蔵
- 14) 同上蔵

国 安 寛

- 15) 雄勝郡稲川町関宇内氏蔵
- 16) 「日本農業技術史」 P 259
- 17) 「10」に同じ
- 18) 「10」に同じ
- 19) 雄勝郡稲川町高橋利雄氏蔵
- 20) 「近世日本農業の構造」 P 273 および「山村の構造」  
P100～101
- 21) 「秋田県史資料編下」 P 487～489
- 22) 「山中新十郎翁伝」 P 158～159
- 23) 「同上」 P 159
- 24) 「同上」 P 137～138
- 25) 「日本マニファクチュア史論」 P 47～48
- 26) 佐々木高明「縄文文化と日本人」
- 27) 松崎憲三「畑作農村の民俗誌的研究」『歴博』14号
- 28) 雄勝郡羽後町鈴木柰之助蔵「御觸御法度之覚」
- 29) 「秋田藩町触集下」 P 189
- 30) 平鹿郡山内村川越退二氏蔵
- 31) 「羽後町郷土史」 P 300～304
- 32) 「秋田県史近世編下」 P 88～89
- 33) 雄勝郡羽後町下仙道公民館蔵